資料

森戸辰男関係文書解題

小池聖一

はじめに

森戸辰男関係史料は、故森戸辰男氏（以下、敬称略）個人の履歴にともない収集・所蔵された書籍・公文書・私文書から、写真、書画骨董に至る貴重かつ膨大な歴史資料群である。このうち書籍については、昭和三八年（一九六三年）八月に森戸から寄贈されて以来、附属図書館職員を中心に「森戸文庫」として整理作業が行われ、残余の部分が平成十年度に入り、平成十年度（一九九八年度）科学研究費補助金「研究成果公開促進費」の「森戸文庫データベース」（The Tatsuo Morito Collection Data-Base）の交付を受けて公開の予定である（代表、小池聖一）。一方で、森戸辰男関係文書は、広島大学の有志研究者で構成する森戸文書研究会（代表総合科学部小池聖一、法学部森邊成一、大学教育センター羽田貴史、文学部勝部真人、総合科学部布川弘・土屋由香、後に大阪産業大学田崎公司、立教大学前田一男）によって自発的に平成七年（一九九五年）から整理作業を継続してきた。本解題は、その成果の一端、かつ中間報告的な意味を持つものである。

森戸辰男関係文書の整理作業については、平成七年より森戸文書研究会の手で整理作業が行われてきたが、平成九年度（一九九七年度）に入り、広島大学総合科学部の総合科学プロジェクトおよび広島大学学内特別経費の支弁をうけ、また、平成十年度からは森戸が新制広島大学の初代学長であったことから、広島大学五十周年記念事業の一環として整理事業が位置づけられるにいたっている。

以下では、森戸の関係史料について、「一、森戸辰男関係史料の概要」で森戸辰男関係史料の全体像を、「二、森戸辰男関係文書の来歴とその内容」では、このうちの森戸辰男関係文書について述べることとしたい。そして、「三、整理方法について」では、本文書の整理方法について述べた。なお、「森戸辰男、人と思想」については、森戸辰男の軌跡を森戸の著作から概述し、別稿とした。本解題の末尾には森戸辰男の履歴を付している。

一、森戸辰男関係史料の概要

森戸は、多数の著作を残すとともに、公的生活のなかで得た文書お

よび書籍を多量に保有することとなった。その全体像は、平成十一年一月現在までの調査段階で、（図－1）のように整理・把握することができる。

（図－1）に明らかなように、森戸辰男所蔵の書籍・文書等は、複数の場所に寄贈され所蔵・収蔵されている。なかでも、横浜市史編集室（横浜市総務局）に収蔵されている森戸辰男文書と[1]、広島大学所蔵の森戸文書とは、密接に関係する史料群といえる。では、より具体的に内容について概観することとしたい。

まず、書籍については、横浜市史編集室に所蔵されているもの、および財団法人労働科学研究所の書籍を除けば、森戸が生前に寄贈したものである（遺品類については、森戸が福山市の名誉市民であったことから、福山市教育委員会に寄贈されている）[2]。最大のコレクションは、広島大学にあり、社会思想・初期社会主義関係の貴重な書籍も含めて六千冊余を数えている（和図書二、九四二点、洋図書三、一二七点、計六、〇六九点、パンフレット七一二点、和雑誌九三種、洋雑誌五二種、森戸講演録二三七点、その他講演録五六点）。この他、大学等に贈与された書籍も、各大学の特色および森戸の個人的関係から寄贈されている。広島修道大学の場合は、森戸が名誉学長であったためであり、日本女子大学の書籍は婦人問題関係のものが寄贈されている。[3]また、労働科学研究所については、創設以来、役員として関係があり、[4]富士政治大学校の場合も、創設者の故西村英一氏との大阪労働学校以来の個人的関係から寄贈したものである。[5]

（図－1）　全体像

- 書　籍
  - 広島大学所蔵『森戸文庫』：社会主義、社会問題関係
    （和図書1,302点、洋図書1,738点、欧文パンフレット712点、和雑誌93種、洋雑誌52種、森戸講演録237点、その他講演録56点、戦後関係図書として、洋書1,389点、和図書1,640点）
  - 広島修道大学（経済関係、洋図書300点、和図書580点）
  - 日本女子大学（婦人問題関係、洋図書45点、洋雑誌１種）
  - 獨協大学（哲学関係、洋図書22点、洋雑誌２種）
  - 国立国会図書館（教育関係、和書134点）
  - 労働科学研究所（和図書596点、洋図書178点、和雑誌120種、欧文雑誌15種、和文欧文パンフレット141点、森戸講演録237点、その他講演録56点）
  - 富士政治大学校付属図書館（和書933点、論文調査資料84点、和雑誌10種、外語資料17点）
  - 横浜市史編纂室（未整理：雑：趣味等、46箱）
- 文　書
  - 広島大学所蔵森戸辰男関係文書（片山・芦田内閣閣議資料、中央教育審議会関係、教育関係42箱、閣議関係16箱、計58箱、他に森戸冨仁子寄贈10,500点）
  - 横浜市史編纂室所蔵森戸辰男文書（教育学術関係、労働関係、書簡、原稿、27箱）
  - 法政大学大原社会問題研究所（初期労働運動関係）
- 遺品等
  - 福山市教育委員会（叙勲関係、写真、書画骨董等、158点）

文書は、若干のものが法政大学大原社会問題研究所に所蔵されている他は(6)、広島大学（広島大学附属図書館）と横浜市史編纂室の二個所に分かれて収蔵されている。広島大学所蔵の森戸文書の来歴等については後述するが、基本的に書籍同様、生前に寄贈されたものである。このうち、文部大臣期関係史料および閣議関係文書等の公文書類は、森戸の秘書でもあった西村博氏（元広島大学政経学部講師）によれば、森戸が広島大学長時代に執務室が手狭となり、旧キャンパス（東千田キャンパス。なお、広島大学は平成六年に統合移転している）の附属図書館二階に移しておいたものがそのまま図書館に収蔵された。そして、残りの私文書および現用の公文書類は、森戸の広島大学長退官とともに、東京の私邸へと移され、四次にわたって広島大学に寄贈された後、夫人である森戸冨仁子氏と甥の故森本松也氏に二分されて所蔵された。森戸冨仁子氏を中心として所蔵された史料群は、森戸の死後、遺品類が福山市教育委員会に、書籍類が労働科学研究所に寄贈された。それ以外の文書類については、そのまま冨仁子夫人を中心とする遺族のもとに保管された。本文書群は、基本的に森戸個人の私文書を中心とする史料群であり、平成十年七月二八日、同年八月二五日、二八日の三回にわけて、広島大学森戸文書研究会に整理作業を委託され、今日にいたっている（概要は後述）。一方、故森本松也氏が所蔵していた関係史料の多くは、書簡、講演録という私文書および日本社会党関係文書・中央教育審議会等の公文書と、趣味（釣り）を中心とした書籍であり、講演録の抜刷等も多数所蔵されている。また、講演原稿については広島大学長時代のものが中心となっている。講演録等の抜刷については、労働科学研究所附属図書館に所蔵されているものを原型として整理されている。これと同じ揃えの講演録が広島大学附属図書館と森戸冨仁子氏のもとに所蔵されていた（後者の森戸冨仁子氏所蔵のものは、平成十年八月二八日付で森戸文書研究会に寄託されている）。また、故森本氏旧蔵・現横浜市史編集室所蔵の書簡も、森戸冨仁子氏から森戸文書研究会に寄託された書簡の一部であったと思われる。同じように、中央教育審議会関係の公文書類も横浜市史編集室と広島大学で二分割されており、これも併せることで一つの史料群となるものである。

二、広島大学所蔵森戸辰男関係史料の来歴とその内容

上記にあるような森戸辰男関係史料の全体のなかで、広島大学附属図書館収蔵の森戸文庫および森戸辰男関係文書は、書籍および私文書・公文書等すべての点で最大のコレクションであるとともに、森戸の全生涯を基本的に通暁しえるものである。

広島大学所蔵の森戸辰男関係史料は、附属図書館に収蔵されている書籍類を中心とする森戸文庫と公文書を中心とする文書群および御遺族森戸冨仁子氏から委託され、森戸文書研究会が整理している私文書等の三つの部分から成り立っている。

広島大学附属図書館に収蔵されている森戸辰男関係史料は、森戸が広島大学長退官後（在職期間、昭和二五年四月～三八年三月）、統合移転前の旧東千田町キャンパスの附属図書館の二階に存置されていた森戸学長手許のものが、そのまま移管されたもの（正式の寄贈は、昭

（表－１）広島大学附属図書館所蔵森戸辰男関係文書

1　片山内閣成立前
- -1　日本社会党関係
- -2　憲法改正関係
- -3　教育刷新委員会
- -4　教育使節団関係
- -5　雑

2　文部大臣関係
- -1　閣議・教育行政（文部省）
- -2　文教委員会
- -3　新学術体制
- -4　新日本国民運動
- -5　大学設置許認可・陳情関係
- -6　資格審査
- -7　公職追放関係
- -8　予算
- -9　日教組
- -10 諸団体関係
- -11 「文化」関係
- -12 雑

3　閣議
- -0　閣議議事
- -1　外務省
- -2　大蔵省
- -3　司法省・法務総裁
- -4　厚生省
- -5　農林省
- -6　商工省
- -7　運輸省
- -8　労働省
- -9　経済安定本部・物価庁
- -10 建設院・建設省
- -11 総司令部関係
- -12 案件
  - -1　全官庁従業員
  - -2　諸保険法案
  - -3　一般職種別賃金額
  - -4　公用文改善協議会設置
  - -5　臨時石炭鉱業管理法案
  - -6　賞勲制度
- -13 陳情・請願

4　広島大学関係
- -1　広島大学関係
- -2　中四国地区国立大学長会議
- -3　大学基準協会
- -4　教育委員会
- -5　アジア教育家会議
- -6　その他

5　日米文化教育会議関係

6　ユネスコ関係（ユネスコ国内委員会委員長）

7　ＩＡＵ関係

8　中央教育審議会
- -1　中央教育審議会関係
- -2　教育政策
- -3　森戸個人
- -4　その他

9　育英会・能研・放送教育関係
- -1　育英会
- -2　能研関係
- -3　放送教育関係

10 その他
- -1　書簡等
- -2　労働科学研究所
- -3　民主社会主義研究会
- -4　社会党関係新聞切り抜き
- -5　陳情・報告書
- -6　国立国会図書館関係
- -7　大学法案関係
- -8　学術会議
- -9　教育調査局発行紀要
- -10 日米大学図書館会議関係
- -11 明治百年祭関係
- -12 新聞類
- -13 パンフレット
- -14 森戸辰男著作関係
- -15 その他

和三八年八月）、および、昭和四六年十月、昭和五一年一月、昭和五一年十一月の四次にわたって寄贈されたものである。このうち、書籍類については、昭和四十年三月に附属図書館および政経学部（当時）の森戸文庫整理委員会を中心に「森戸文庫整理計画」が策定され、作業が進められた。しかし、おりからの学園紛争等により、目標とされた昭和四二年三月の目録刊行は、新たな寄贈をうけつつ、附属図書館より『森戸文庫目録』（昭和四八（一九七三）年三月）および『森戸文庫目録（続）』（昭和五四年三月）として刊行されるまで、一四年の歳月を必要とした。ここで整理されたのは、森戸がドイツで収集されたものを中心とする欧文パンフレットと、社会主義・社会主義運動・無政府主義・社会問題・社会政策・経済関係の書籍である。このなかには、マルクス『資本論』第一巻の初版本も含まれている。しかし、これ以外の戦後期を中心とする教育関係および戦後日本の労働関係等の書籍については、カード化が一旦なされたものの、整理されなかった。そして、附属図書館の統合移転後も特別資料室に一応配架されながらも未整理のまま推移していた。この書籍類の整理事業に着手するきっかけとなったのが、平成十年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」「森戸文庫データベース」の交付であった。

一方、公文書を中心とする文書類は、平成七年四月まで一度も整理されず、これ以降、森戸文書研究会によって整理が進められている。この公文書類については、昭和四六年十月の第二次寄贈に際して、中央教育審議会資料・能研関係資料・国際大学協会関係資料、労働科学研究所関係資料、憲法調査会資料、広島大学関係資料が受贈されていることが確認できるが、それ以外の閣議関係資料等については、森戸の手許資料がそのまま移管されたものと推測できる。その後、公文書類については、広島大学二十五年史の作成にあたって、広島大学関係の公文書類が、同編集室によって一部『広島大学二十五年史』に利用された。[7] また、渡部宗助氏（国立教育研究所・教育政策研究部・室長）が調査され、平成四年（一九九二年）の段階で教育関係史料のみを抽出してマイクロフィルム化と目録化が行われ、[8] さらに、同氏を代表者とする平成七年度科学研究費補助金・一般研究（B）「森戸辰男資料の教育政策史的調査研究」でも、整理されることなくマイクロフィルムに撮影されるとともに、「目録稿」が作成されている。[9]

このため、森戸文書研究会では、公文書が森戸の履歴にそって生成され、整理されたという森戸辰男関係文書の固有性を勘案し、基本的に森戸の履歴にそって整理することとした。また、史料群そのものが一体であると共に、森戸自身の手によって、袋詰めされていることを重視して整理している。結果、平成十一年一月現在のところ、（表―1）のような仮分類において、整理を進めている。ただし、この区分は、森戸自身の整理に基づくものであり、内容的に整合性を欠く場合も多々ある。このため、今後の整理過程では、項目の移動、採録文書等の整理・移動等も考えられる。

上記の広島大学附属図書館に収蔵され、森戸文書研究会により整理を継続している史料群は、戦後の森戸の公的生活を基本的に通暁しえる史料群である。以下では項目ごとに文書の概要を紹介することとしたい。

まず、「1　片山内閣成立前」は、本来ならば、大原社会問題研究所および「日本文化人聯盟」「憲法研究会」、日本社会党関係として「救国民主聯盟」や社会党政務調査会関係および教育刷新委員会等の史料群が含まれることとなる。しかし、日本社会党関係資料の多くは、現在、横浜市史編集室が所蔵している。広島大学のものとしては、故清水慎三氏による「救国民主連盟に関する考察」等数文書しか存在しない。反面、広島大学は、「-2　憲法改正関係」「-3　教育刷新委員会」「-4　教育使節団関係」の三つの史料群を有している。このうち、「-2　憲法改正関係」は、憲法改正委員会の報告書および案に対する社会党の代案・修正案であり、社会党内部での議事経緯をも理解できる森戸自身による加筆・修正がなされている。「-3　教育刷新委員会」は、教育基本法の制定過程で設置された教育刷新委員会関係の史料群であり、GHQからの指令から、官制および森戸が出席した総会・委員会で配布された参考資料としての諸報告である。随所に森戸自身による「-2　憲法改正関係」同様の黒ペン等による加筆・書き込み、修正等がなされている。「-3　教育刷新委員会」は、森戸自身の手により一つにまとめられて袋に詰められていたものであり、教育基本法制定過程および六・三制の成立過程がわかる片山内閣文部大臣就任以前の資料と就任後の著作権問題、教科問題等に関する文部大臣の手許書類から形成されている。「-4　教育使節団関係」はアメリカ教育使節団の報告書および日本側教育委員会の報告書であり、これにも森戸自身による鉛筆書の加筆・修正等がなされている。「-5　雑」は、当該期の文教行政を示す文書が中心であり、特に学術刷新委員会関係の文書が多く含まれている。

「2　文部大臣関係」は、片山・芦田両内閣の文部大臣・行政長官としての執務に関する史料群である。「-1　閣議・教育行政（文部省）」は、閣議にあたり、森戸が説明用として持参した参考資料および閣議で配布された閣議参考資料および引継ぎ資料等の文書により形成されている。内容は、行政改革を含む文部省の制度問題から新制中学校の整備関係資料、教科書制度改正、「朝鮮人学校」関係等である。本史料群は、閣議にあたり森戸が文部大臣として所持した手許資料と思われる。「-2　文教委員会」は、国会での答弁関係の書類が中心である。文部省内で上申され、決定された文書に対して森戸は、加筆・訂正等をしていることがわかる。また、国会での森戸自身による答弁原稿やメモ、国会質問の骨子、教育委員会法案関係の文書資料も含まれている。「-3　新学術体制」は、学術研究体制世話人会・学術体制刷新委員会の設置から日本学術会議設置にいたる過程の史料群である。「-4　新日本国民運動」は、同運動の計画から、同運動に伴う森戸の出張関係資料等一連の文書を含んでいる。「-5　大学設置許認可・陳情関係」は、帝国大学関係資料および官立大学官制改正関係資料、各学校からの設置許認可・陳情関係の文書を含んでいる。「-6　資格審査」は、教職員の適格審査いわゆるホワイトパージ関係の史料群である。基本的に文部省学校教育局作成のもので、教職員の適格審査状況報告等の文書とともに出版に対する審査関係も含んでいる。「-7　公職追放関係」は、「-6　資格審査」の結果としての公職追放関係の史料群である。「-8　予算」は、文部省予算に関する説明資料、議会提出資

料および各費目に関する調査資料等（新制中学校整備費に関する文書が多い）を含んでいる。また、このなかには、予算をめぐって経済安定本部との間で行われた交渉過程を示す文書も含まれている。「-9 日教組」には、文部省と教員組合間の労働協約の文書も含まれている。「-10 諸団体関係」は、日本芸術院、婦人民主クラブ等の文書が含んでいる。「-11 「文化」関係」には、財団法人常民生活科学技術協会、国際宗教同志会および文化運動関係の文書が含まれている。「-12 雑」は、「2 文部大臣関係」に相当する雑誌、新聞切り抜き、および各式典等で行われた森戸文部大臣の挨拶等を含んでいる。

「3 閣議」は、国務大臣として森戸が参画した閣議で配布された閣議参考資料により構成されている。そして、閣議当日に配布された資料は、森戸自身の手によって実質的に四つに分類されている。まず、「-0 閣議議事」は、議当日の配布資料そのままに保存されたものである。これは、基本的に閣議当日の議事次第にそって配布された資料が何ら整理されずに保存されたもので、本整理においても一つの単位として踏襲した。これを森戸が各省・機関ごとに再整理したものが「-1 外務省」から「-11 総司令部関係」までのものである。さらに、重要案件ごとに整理したものが、「-12 案件」の諸事項である。そのうえで、当該期の陳情・請願は、「-13 陳情・請願」とした。より具体的に内容をみるならば、「-0 閣議議事」は、閣議にあたって配布された資料である。当該閣議配布資料は、次官会議をへて提出された閣議決定案、法律案、政令案、報告等を多く含むものである。このなかには、森戸の手により加筆・訂正等が行こなわれることで、閣議内容をしる手がかりを見ることもできる。文書のなかには、閣議における閣僚の発言をそのままメモしたものも散見される。内容は、多岐にわたっており、芦田内閣による公務員法改正関係等の文書は、基本的にここに含まれている。また、一部のものには、閣議の議事次第が同封されている。当該期の閣議の制度および内容を知りうる史料群である。「-1 外務省」は、外務省作成の各国の対日世論・ソ連情報等を含んでいる。「-2 大蔵省」は、閉鎖機関関係、造幣局等の官制関係、外国貿易特別円資金特別会計法、地方財政法等の法令案等により構成されている。「-3 司法省・法務総裁」は、法務庁の発足関係、裁判官・検察官関係、少年法関係の法律案・政令案等の文書が含まれている。「-4 厚生省」は、官制関係および医師法等の法律案等の文書を含んでいる。「-5 農林省」は、農地改革後の自作農創設特別措置法、農地調整法、食糧確保臨時措置法等を中心とする閣議関係の史料群である。米等の供出・配給について連日のように閣議で議題となっていたことが判る。「-6 商工省」は、緊急経済対策、財閥解体、中小企業庁および石炭・電力関係、輸出関係や衣料品の配給関係等の報告、法律案、閣議決定・了解案等の文書を含んでいる。「-7 運輸省」は、海上保安庁の設置関係、鉄道貨物の輸送力増強関係、国鉄関係の諸法案等の文書を含んでいる。「-8 労働省」は、東宝らの労働争議関係、傾斜生産方式に基づく炭坑労働者関係等の各種要綱、報告、法律案や閣議決定案等の文書を含んでいる。「-9 経済安定本部・物価庁」は、経済復興計画関係、片山内閣瓦解の契機ともなった官公労働者賃金の一八〇〇円問題、および各種需給計画、物価問題、経済力集中排除法

案等の関係文書を有している。「-10 建設院・建設省」は、建設省設置関係および福井地震等の災害関係の史料群である。「-11 総司令部関係」は、GHQからの各種司令およびGHQ作成の法律案等の文書である。経済力集中排除法、公務員法関係の文書を含んでいる。「-12 案件」としては、「-1 全官庁従業員」は、官公労と政府間の一八〇〇円問題を中心とする交渉関係をしめす文書を多く含んでいる。「-2 諸保険法案」には、船員保険、健康保険等の資料を含んでいる。「-3 一般職種別賃金額」は、大蔵省作成の一般職種別標準賃金に関する文書等を含んでいる。「-4 公用文改善協議会設置」は、公用文の口語体への変更に関する史料群である。「-5 臨時石炭鉱業管理法案」は、石炭庁による報告とともに臨時石炭鉱業管理法等の石炭産業の国家管理に関する文書を含んでいる。「-6 賞勲制度」は、日本国憲法下での賞勲制度見直し、栄典制度の改革案等の文書を含んでいる。「-13 陳情・請願」は、請願に関する報告書等を含め、各地方公共団体からの陳情等の文書である。

「4 広島大学関係」は、学長在任十三年という長期間を対象としている。このうち「-1 広島大学関係」では、戦後広島市の復興と並行して進んだ広島大学の様子が分かる。含まれている文書類は、学内行政、各種規程、人事に関する諸調査資料、大学をめぐる諸社会問題としては学生運動、平和運動関係等の史料群である。その一方、広島県下高等学校関係の教育資料や広島におけるライシャワー米国駐日大使講演関係等の文書をも含んでいる。「-2 中四国地区国立大学長会議」は、中国・四国地区国立大学学長会議関係資料、国立大学協会関係資料、全国大学教授連合関係資料、特殊なものとしては南極観測及び原子力の研究における科学者の健康と生命の保全についての要望書や文教政策に関する要望書等も含まれている。「-3 大学基準協会」は、理事会・評議会での配布資料や議事抄録等の文書を中心に構成されている。「-4 教育委員会」は、教育委員会関係の文書が中心であるが、戦後の教育制度変革に関する文書も含まれている。「-5 アジア教育家会議」は、森戸がユネスコに参画する過程で構想したアジア教育家会議関係の文書である。「-6 その他」は、ヒロシマピースセンター構想およびABCC（Atomic Bomb Casual Commission）関係、原水爆反対世界大会資料等の文書を含んでいる。このほかに、森戸関係の新聞切抜きも含まれている。なお、広島大学長時期の講演原稿については、多くを横浜市史編集室が所蔵している。

「5 日米文化教育会議関係」は、六〇年安保後に設置され、森戸が日本側首席代表ともなった日米教育文化会議委員会で配布された資料であり、学術面（地域研究が中心）・人的交流、日本文化の紹介等に関する史料群である。

「6 ユネスコ関係（ユネスコ国内委員会委員長）」は、ユネスコの国際会議および国内委員会関係で配布された資料を中心に構成されている。対象時期は、昭和三五年から四五年までのものを広島大学では所蔵している。

「7 IAU関係」は、IAU（International Association of Universities）・国際大学協会総会での配布資料等で構成されている。その中心となるのは、森戸が組織委員会委員長をつとめた昭和四十年

の東京で行われた第四回総会関係の資料である。このなかには、森戸の会議でのスピーチ原稿から、組織委員会関係の諸書類が含まれている。

「8　中央教育審議会」は、広島大学と横浜市史編集室との二分割されて所蔵されている。このため、広島大学側羽田貴史と横浜市史編集室側前田一男が中心となり、文部省科学研究費を取得し、共同で史料の統一的な整理を行っている。広島大学側の資料群は、大学教育研究センターの分置されていたもので、中央教育審議会関係の史料群である。これを文書の機能別に整理した。文書は、森戸が中央教育審議会委員・委員長として、会議に際して配布された資料であり、これに付随するものとして多くの文書が森戸自らの手によって同封されている。資料の内容については、運営関係、今回のインターネットで公開する総会での配布資料、具体的な事項としては、科学技術教育関係、後期中等教育関係、大学改革関係等の史料群を有している。

「9　育英会・能研・放送教育関係」には、まず、「-1　育英会」として若干の資料（5文書程度）がある。「-2　能研関係」「-3　放送教育関係」は、現在までのところ未整理である。

「10 その他」には、個別で小規模の案件に関する史料をまとめた。まず、「-1　書簡等」は、礼状・案内等の封書・官製はがき・名刺等を中心に構成されている。「-2　労働科学研究所」は、財団法人労働科学研究所理事会での配布資料等より構成されている。内容は、昭和三七年から四三年度までの事業計画、理事会・評議会報告についてである。「-3　民主社会主義研究会」は、昭和三五年の民主社会主義研究会の会議資料を中心とする史料群である。「-4　社会党関係新聞切り抜き」は、昭和三四年九月の新聞切り抜きを含んでいる。「-5　陳情・報告書」には、経済安定本部資源委員会の文書、簡易保険・郵便年金積立金をもって地方債とすべく森戸に働きかける広島県の陳情書等雑多な文書が含まれている。「-6　国立国会図書館関係」は、国立国会図書館法の一部改正関係および図書館整理状況調等の文書を含んでいる。「-7　大学法案関係」は、大学管理法案の起草から案までの資料を含んでいる。「-8　学術会議」は、日本学術会議の配布資料および日本学術会議内の原子力問題委員会、国際学術交流委員会資料、科学技術会議の設置関係資料等の文書も含まれている。「-9　教育調査局発行紀要」「-10　日米大学図書館会議関係」「-12　新聞類」については、未整理である。「-12　明治百年祭関係」は、森戸が昭和四一年四月に明治百年記念行事の準備会議委員になったことから、「依嘱」から作業過程での議事録等の文書を含んでいる。「-13　パンフレット」は、国立劇場等の購入ないし、送付されてきた各種パンフレットを含んでいる。「-14　森戸辰男著作関係」のパンフレットは、前記労働科学研究所が整理したパンフレット等と重複している。「-15　その他」は、地方財政の健全化等を含めた財政・金融関係の書籍も散見される。

その後、平成十年七月二八日、八月二五日、八月二八日の三回にわたって、故森戸辰男夫人の森戸冨仁子氏から新たに史料群が送付されている。現在、粗整理の段階ではあるが（表－2）のような史料が存在する。

（表－２）森戸冨仁子氏寄贈森戸辰男関係史料概要

（文書）

1．書簡	総点数	2,930点
2．講演原稿等	総点数	約6,000点
3．日記	総点数	7冊
4．手帳	総点数	20冊
5．ノート	総点数	29冊
6．スクラップ・ブック	総点数	41冊
7．ＩＬＯ・ユネスコ関係文書	総点数	約50点
8．国際大学協議会関係	総点数	約200点
9．森戸辰男先生米寿関係	総点数	2点
10．森戸先生葬儀関係	総点数	2点
11．森戸先生履歴関係史料	総点数	29点

（映像史料）

1．写真	総点数	580点
2．スライド	総点数	2,817点
3．ネガ	総点数	11点
4．映画フィルム	総点数	1点
5．テレビフィルム	総点数	3点
6．ビデオフィルム	総点数	4点
7．オープン・リール	総点数	8点
8．レコード	総点数	4枚
9．カセットテープ	総点数	8点

（書籍）

1．書籍	総点数	約500冊
2．講演録	総点数	約300点

（その他）

1．森戸先生肖像額　米寿祝、百まで働こう会		
2．図書館協会九十周年表彰銅額		
3．書画	総点数	9点
4．色紙　総点数　11点		
5．絵はがき等　総点数　229点		
6．グラフ・アルバム	総点数	7冊
	合計	約14,000点

（表－２）にあるように、現在、森戸文書研究会が森戸冨仁子氏から整理を委託されている史料は、大学長経験者の史料群として東京大学法学部所属近代日本法政史料センター所蔵の加藤一郎（元東京大学長）氏旧蔵史料を越える規模を有している。本史料群は、ほとんどが森戸関係の私文書である。とはいえ、内容は、森戸の公的仕事に関するものがほとんどであり、森戸を通じて戦前の労働運動史・戦後の文教政策史を通暁しえる史料的価値を有するものである。

具体的に内容を紹介するならば、「1、書簡」のうち、約千点は、森戸自身の手によって「重要」と記されて箱詰めされていた大原社会問題研究所時代を中心とする戦前期労働運動関係の書簡である。本書簡群は、戦前期労働運動の一つの中心として大原社会問題研究所が機能していたことを示す一級史料である。大杉栄・賀川豊彦等の錚々たる労働運動関係者からの書簡が含まれている。また、森戸事件後に、森戸の将来を案ずる後藤新平や、有島武郎の書簡等も含まれている。さらに約千点の書簡は、片山・芦田両内閣の文部大臣時を中心とするものであり、故清水慎三氏の政策提案をなした書簡等を含むこれも他に比類無き史料群である。残りの書簡類は、広島大学長、中央教育審議会会長等の時期を中心に晩年にいたるまでのクリスマス・カード等をも含む書簡群である。以上の書簡群は、労働運動関係者の書簡等をはじめとして国立国会図書館憲政資料室にも所蔵されていない、一級史料である。(10)

「2、講演原稿等」は、戦後、広島大学長として、また、中央教育審議会の会長・委員として、多方面で講演した際の原稿およびメモを

中心とする史料群である。一部ではあるが、論文・著書等の直筆原稿等も含んでいる。本史料群は、戦後文教政策に関する諸問題に対する森戸の思想的系譜を知る重要なものであるとともに、戦後日本文教政策の経緯を知る一級の史料ともなっている。なかでも講演原稿は、森戸自身による推敲のあとが伺われ、興味深いものである。また、若干ではあるが戦前のものも含まれている。「3、日記」は、昭和三十年・四十年代の断片的な備忘録的な日記である。本日記は、当該期の広島大学および広島大学を取り巻く大学政策の実態を知りうる重要史料である。「4、手帳」は、晩年の昭和四十年代および五十年代を中心とするもので、森戸の行動記録である。「5、ノート」は、教育問題、労働問題、社会問題、福祉問題、民主主義、女性問題等多岐にわたるもので、前述の講演原稿作成のために作成されたものであるとともに、自らの認識を再確認するためにも機能したものと思われる。「6、スクラップ・ブック」は、森戸のインタビューおよび関連記事等を中心としたもの。このうち、二冊は、戦前期のものである。「7、ＩＬＯ・ユネスコ関係文書」は、広島大学が所蔵し、附属図書館に収蔵されている森戸辰男関係文書の「6、ユネスコ関係」と本来、同じものである。また、対応関係が整合し、また、公文書でもあり、「6、ユネスコ」の項目で統一すべきと考えている。「8、国際大学協議会関係」は、国際大学協議会出席に際しての書簡、書類、書籍を中心とする史料群である。「10、森戸先生葬儀関係」は、森戸の米寿に対する祝電、祝儀袋等であり、福山市教育委員会が所蔵している遺品類の中の弔辞と対をなすものである。「11、森戸先生履歴関係資料」は、これも福山市教育委員会の資料と対をなすものが多いが、森戸が履歴資料として所蔵していたものである。家系図等とともに、このなかには、森戸事件に際しての召喚状等も含まれている。

映像史料としては、戦前大原社会問題研究所時代から、文部大臣期、広島大学長時代を中心とする歴史的重要な証言的写真を多数含んでいる。さらに、明治初期の銀盤写真等も含まれている。写真については、福山市教育委員会に寄贈されたものの写と思われるものもあり、法政大学大原社会問題研究所の大原社会問題研究所時代の写真とあわせれば、ほぼ、戦前期、森戸の写真は、揃うものと考えられる。スライドは、森戸が外国出張時に自身で撮影したものが中心である。映画フィルムは、ＮＨＫ「宗教の時間」時のものである。

書籍、講演録等は、森戸自著を中心とするもの。講演録・抜刷等も含んでいる。ただ、書籍のなかで、平成十年八月二五日に森戸冨仁子氏が広島大学に来られた際、直接、寄贈を受けたもののなかで、PETER KROPOTKIN 〝THE STATE－ITS HISYTORIC ROLE－〟 LONDON FREEDOM PAMPHLETS NO.11 1898 がある。これは、大原社会問題研究所の所員時、森戸がドイツ留学された際に譲り受けたものと思われ、書中には、クロポトキン直筆の署名がある。「その他」の色紙のなかには、片山哲元首相直筆の色紙も存在する。

いる日付）を採用する。不明の場合は、何も記入しない。また、起案日しか記載されていない場合は、これを記入する。ただし、「(起案)」との語句を日付の終りにいれる。なお、起案日と決裁日の双方が存在する場合は、年月日の欄および備考欄に起案日についても記載する。暦については、文書に記載されている暦を記入する。多くは、和暦であるが、西暦の場合もある。

例一：昭和二十二年三月二十一日
　　昭和22年3月21日
例二：June.3.1947
　　1947年6月3日
例三：決裁日
　　起案日 昭和二十二年三月二十一日
　→昭和22年3月21日（起案）
例四：経済安定本部　昭和二十二年三月二十一日
　→昭和22年3月23日　（経済安定本部　昭和22年3月21日）

5）起案者、発信者・受信者

判明する限り、発信者と受信者を記す。受信者が多数の場合も可能なかぎり之を記す。

文書の作成者は、起案者の欄に記入する。

6）形態

記入の形態（印刷：孔版、青焼き、タイプ、和文タイプ、活版、手書き：鉛筆書、墨書、青ペン書、黒ペン書、朱書等)、紙数（ないし頁数）大きさ（例：B5、A5変)、用箋・紙質の種類（例：わら半紙、内閣赤罫紙、外務省用紙）についても記載する。また簿冊体のものについては、その簿冊件名の次に形態を記す。簿冊体のものについては、厚さ(cm)および大きさについて記す。

なお、枚数と頁数については、資料に序数の表記がある場合は全て頁数とみなす。
→散逸しないよう確認の為でもある。

7）備考

一件文書に添付資料等が付属する場合、出来得る限り全ての書類について記す。

なお、添付史料等に「別紙一」等の記載がある場合は、さらに枝番号を付して整理する。また、紙背文書がある場合もその旨を記す。

整理番号
　2（文部大臣期）－3（時期的に3番目の袋）－2（3番目の文書）
にさらに枝番号が付くから
　2－3－2－2
となる。

その際、添付資料の経緯他により、別紙・別添等の記述をもって分類し、形式における統一を行わない。また、冊子体の文書・書類について目次等があるばあいは之を記す。

なお、原則として漢字は、常用漢字表に基づいて使用することとする。

◎フォーマット
整理番号
件名
文書番号
年月日
起案者
発信者
受信者
形態
備考

◎具体的記入例
整理番号　3-2-2-4
件名　　「賠償充当設備等撤去令案」
文書番号
年月日　　昭和22年12月24日
起案者
発信者
受信者
形態　　孔版、わら半紙(B4)9枚
備考　　賠償充当設備等撤去令案
　　附則

3．文書整理上の留意点

整理にあたっては、整理前段階の形態を尊重し、改変等を加えぬように留意する。このため、ファイル化されているもののなかにも、簿冊件名と異なる文書が含まれる場合があり、また、年代順ともならない場合もある。それゆえ、本整理においては、細目次を付すこととする。

4．目録の作成

目録の作成にあたっては、文書の性格が、故森戸辰男氏の公的経歴にそって派生していることから、基本的に上記の整理番号を前提としてこれにより具体的な内容的分類をつけたうえで整理することとしたい。

なお、作成にあたっては、上記のデータ・ベースの内容を基本的に記載して、構成する。

（表－3）　文書整理の手順

1．整理の手順

対象となるのは文書であり、小冊子、書籍等については別途に整理する。文書については、一件ごとに、表題・形態等を記入のうえ中性紙の袋に収めて整理箱に保管する。

その手順については、次の通り。

1）詰められている「箱」毎に整理する。

2）箱のなかを確認。

イ．形態で大きく次のように分類

(1)　袋詰め

(2)　紐で縛られている

(3)　冊子→ファイル

(4)　バラ

ロ．次に形態毎に内容から、時系列的に分類する。

3）形態ごとの整理

イ．ファイル・簿冊

→綴じられている範囲で一単位（中分類）として袋詰め（一袋に）

史料等が挿入されている場合は、これも記入フォーマットの備考欄に記載する。

ロ．袋詰め、紐で括られているもの

(1)　森戸自身による分類・整理か、それ以外の人為的なものかを判断する。

→袋詰め、紐で括ってあるものを一単位（中分類）とする。

(2)　森戸自身による分類を尊重する。それ以外のものは森戸自身の分類方法に準拠する。

森戸自身による分類の続編等の場合は、これに繋げる。なお、森戸先生自身の分類の場合は、袋に表題があるのでこれを尊重する。

(3)　中身を確認して時期を確認する。その際、文書の順番はそのままとする。

(4)　各単位ごとに「昭和22年10月一日から同年12月1日」までというように時期区分をつけて上記の大分類ごとにまとめる。

(5)　各単位ごとに、袋・紐括りの時期的に若い順に整理。

(6)　その袋、紐括り内の文書について、日付の若い順に一文書毎に下記のフォーマットと袋上の記入欄に記入する。

その際、整理番号については、鉛筆書きする。

例：整理番号　半角小文字

2（文部大臣期）－3（時期的に三番目の袋）－2（二番目の文書）

(7)　袋と文書を確認したうえで中性紙の袋に入れて順番に整理箱につめる。

ハ．バラ

(1)　バラのものは、内容からこれを一文書として整理する。

(2)　大分類別にわける。そのうえで日付の若い順に一文書毎に下記のフォーマットと袋上の記入欄に記入する。

その際、整理番号については、鉛筆書きする。

例：整理番号

2（文部大臣期）－0（バラであったの意味）－2（二番目の文書）

2．記入の実際

そして、表題・形態等をテキストファイルとして入力する。その際の具体的表記・項目は以下の通りである。

1）分類番号（索引番号）

文書の性格・内容等を考慮して作成する。簿冊形態および袋にて一括されているものについては、収録文書順に番号を付す。また、一枚文書等については枝番号をつけることとする。

なお、作業にあたっては箱ごとに通番号を仮番号として付し、分類番号については、最終的な目録作成段階で行う。

→さしあたり、整理番号を付す。目録作成時に整理して分類番号を作成する。

2）件名

各文書の件名については、原則として原文書の件名を採用し（原文に間違いのある場合も基本的にそのまま）、不明のものについては適宜件名を付した（その際、次のように記す→表題なし［～の件］）。その際、一件文書を一件として件名を採った。

なお、件名について漢字かな混じりのものは編者が付したものとする。

→文書の内容を吟味して簡潔につける。具体的には、「～の件」「～について」等

3）文書番号

文書番号が判明する場合には、文書件名の次に記載する。

具体的な例としては、

官房機密第100号

4）年月日

原則として文書の決裁年月日（記入されて

三、整理方法について

以上、述べてきたように、現在、森戸文書研究会が委託をうけて整理している史料群をあわせて広島大学全体の史料群は、書籍（森戸文庫）・公文書類・私文書類と大きく三つに分類でき、それが森戸の生涯の公的生活と密着して収集・整理されてきた。

書籍に関しては、和書と洋書とに大別し、そのなかを、単行書・雑誌・パンフレットに分けて整理を行っている。これをカード化し、そのうえでリストを作成している。これを左記のように内容毎に分類している。

0　総記
1　社会主義
2　社会主義運動
3　無政府主義
4　社会問題・社会政策
5　経済学
6　社会学
7　政治・法律
8　哲学
9　その他　（教育・人文・自然科学）

その際、目録化に際しては、政経学部教官による森戸文庫運営委員会によって分類作業を行った。そして、昭和四八年三月の段階で収録範囲を戦前の刊行物とし、分野を社会科学および哲学と決定している。結果、国際関係、教育、歴史、文学、語学、芸術、自然科学関係の書籍等は、目録化しないこととなった。これに、戦後の社会科学関係の書籍も加わり、現在、公開促進費をもって作業している森戸文庫の第三次の整理が必要となったのである。(11)

一方、森戸辰男関係文書については、森戸が史料の整理にあたって公的仕事の内容ごとに時系列的に大まかに分類し、それを封筒詰めしていたこともあり、最終的には、公文書類を「M」を最初につけて分類し、私文書類については、「T」を最初につけて分類、目録作成を行う予定である。この整理方法については、森戸文書研究会として（表－3）の「文書整理の手順」を整理の指針として作成している。

以上の森戸辰男関係文書の整理に関しては、特に、森戸自身の分類に留意した。このため、一般には、内容的に分類・整理がされていないような印象をあたえることとも成ったと思われるが、上記のように一文書ごとに詳細な情報を掲載することとしたので、正確さにおいて、未整理との印象を払拭できるものと考えている。

おわりに

以上、述べてきたように、現在、森戸文書研究会が委託をうけて整理している史料群をあわせ広島大学全体の史料群は、書籍（森戸文庫）・公文書類・私文書類と大きく三つに分類でき、それが森戸の生涯の公的生活と密着して収集・整理されてきたことがわかる。今後も、基本的な整理作業を継続しながら、目録の整備を進めていくこととしたい。

注

(1) 横浜市史編集室所蔵の森戸辰男文書については、田崎公司「横浜市史編集室蔵「森戸辰男」資料の現状」『大原社会問題研究所雑誌』四七五号、一九九八年六月を参照。また、一部の目録として、横浜市総務局市史編集室編『横浜市史資料所在目録―近・現代―』第七集（平成十年三月）が刊行されている。横浜市史には、一九八〇年（昭和五五年）に資料提供の申し出があり、受領されている。なお、横浜市史編集室所蔵の森戸辰男文書中、広島大学関係の文書については、マイクロフィルムに撮影し、森戸文書研究会で所蔵している。同文書の閲覧・複写に際しては、職員の曽根妙子氏および同市史編纂委員の荒敬氏、および大阪産業大学の田崎公司氏にお世話になりました。この場をかりてお礼いたします。

(2) 福山市教育委員会所蔵の「故森戸辰男氏寄贈遺品目録」（一九九三年三月）によれば、所蔵されているものは、叙勲関係、写真、書画骨董等で一五八点である。なお、福山市教育委員会では、一九九三年（平成五年）五月一八日から同二三日まで、ふくやま美術館で「福山市名誉市民 森戸辰男遺品展」を開催している。

(3) 『森戸文庫目録（稿）』（一九九五年十月）がある。

(4) 目録としては、（財）労働科学研究所図書館編『森戸文庫目録』（一九九〇年一月）がある。

(5) 目録としては、富士政治大学校附属図書館編『森戸文庫目録』（昭和五五年十二月）が刊行されている。

(6) 法政大学大原社会問題研究所には、森戸事件公判関係の書類と写真（大原社会問題研究所時代を中心としたもの）が所蔵されている。なお、史料の調査・複写にあたっては、職員の御子柴啓子氏および松尾純子氏にお世話になりました。

(7) 広島大学二十五年史編集委員会編『広島大学二十五年史』通史編（昭和五四年三月）。

(8) 平成三年度文部省科学研究費・総合研究（A）「森戸辰男関係文書目録稿」。

(9) 渡部宗助編「森戸辰男資料目録稿」一九九六年三月。

(10) なお、森戸辰男宛の櫛田民蔵書簡は、櫛田民蔵著大内兵衛・向坂逸郎監修『櫛田民蔵・日記と書簡』社会主義協会出版局（一九八四年）に所収されている。

(11) 今回の書籍整理分については、昭和三八年八月から、同四八年三月までの整理作業中（昭和五二年七月一九日に新たに洋書五冊の寄贈を受けている）にも、一応、カード化されたが、附属図書館で運用しているOPACのデータ・ベースに対応していないため、新たに目録化するにあたって再整理を行っている。

（こいけ　せいいち・森戸文書研究会代表、広島大学総合科学部助教授）

森戸辰男履歴

明治21年12月23日	生まれる（本籍地広島県福山市東堀端二201）
明治31年３月	広島県深安郡福山町尋常小学校卒業
明治35年３月	広島県深安郡福山町高等小学校卒業
明治40年３月（19歳）	広島県立福山中学校卒業
３月	第一高等学校一部甲入学
明治43年７月（22歳）	同校卒業
７月	東京帝国大学法科大学経済学科入学
大正３年７月（26歳）	同校卒業
７月31日	任東京帝国大学法科大学助手
９月	東京帝国大学法科大学助教授
大正５年９月１日（28歳）	東京帝国大学部法科大学助教授
大正８年４月１日（31歳）	東京帝国大学経済学部勤務
８月10日	大原社会問題研究所常務理事
大正９年１月10日（32歳）	文官分限令第11条第1項第4号により休職、文部省留学生を免ず
10月12日	新聞紙法違反
10月22日	刑事裁判確定により失官
10月	大原社会問題研究所より経済学社会問題研究のため２ヶ年英独仏露へ留学（大正12年8月10日まで）
昭和20年11月５日	憲法研究会会合
昭和21年４月10日（57歳）	衆議院議員当選（第一回）
８月10日	教育刷新委員会委員
昭和22年１月22日（58歳）	給与審議会委員
４月25日	衆議院議員当選（第二回）
６月１日	片山内閣成立、国務大臣・文部大臣
昭和23年３月10日（59歳）	芦田内閣成立、国務大臣・文部大臣
４月27日	国立国会図書館連絡調整委員会委員
10月15日	吉田内閣成立により国務大臣の地位を失う
昭和24年１月23日（60歳）	衆議院議員当選（第三回）（昭和25年4月15日まで）
９月	教育美術振興会会長
昭和25年４月19日（61歳）	文部教官採用、広島大学学長。兼広島文理科大学長
昭和26年１月20日（62歳）	日本学術会議会員（第二期）
９月１日	財団法人労働医学心理学研究所理事
昭和27年８月１日（63歳）	日本ユネスコ国内委員会副会長併任
６月20日	社会教育審議会（労働者教育文化審議会）臨時委員（7月10日まで）
昭和28年１月26日（64歳）	広島大学教育長講習「町村教育委員会教育講習」講師併任
６月１日	大学設置審議会委員併任（昭和30年5月31日まで）
９月１日	財団法人労働科学研究所理事
９月10日	中央教育審議会専門委員（第一期）（昭和30年1月25日まで）
昭和29年１月20日（65歳）	日本学術会議会員（第三期）
10月22日	第8回ユネスコ総会（ウルグアイ）日本代表
昭和30年１月25日（66歳）	中央教育審議会委員（第二期）（昭和32年1月24日まで）
２月26日	広島大学学長選考
６月１日	大学設置審議会委員併任（昭和32年5月31日まで）
８月１日	日本ユネスコ国内委員会併任

９月１日	日本ユネスコ国内委員会副会長併任
昭和31年12月25日（68歳）	第9回ユネスコ総会（インド）日本代表
昭和32年１月20日（69歳）	日本学術会議会員（第四期）
３月12日	中央教育審議会委員（第三期）（昭和34年3月11日まで）
６月１日	大学設置審議会委員併任（昭和34年5月31日まで）
昭和33年１月17日（70歳）	沖縄出張（1月25日まで）
９月５日	日本ユネスコ国内委員会副会長
10月14日	第10回ユネスコ総会（パリ）日本代表顧問
昭和34年３月（71歳）	労働科学研究所理事長
４月１日	広島大学学長任命
４月14日	中央教育審議会委員（第四期）（昭和36年４月13日まで）
10月１日	日本ユネスコ国内委員会会長
昭和35年３月	全日本社会教育連合会会長（昭和55年5月まで）
昭和36年４月（74歳）	全国放送協会研究会連盟理事長
４月16日	中央教育審議会委員（第五期）（昭和38年3月31日まで）
10月25日	国語審議会委員（昭和38年10月24日まで）
昭和37年１月（75歳）	日米文化教育研究会議首席代表（昭和45年まで5回）、同代表（昭和49年まで2回）
３月27日	アジア地域ユネスコ加盟国文部大臣会議顧問
４月１日	広島大学広島文理科大学長の併任修了
10月14日	願により大学設置審議会委員を免ずる
昭和38年１月（76歳）	能力開発研究所理事長（昭和46年10月まで）
２月	英語教育協議会理事
４月１日	任期満了により広島大学退職
４月	日本育英会会長（昭和47年3月まで）
４月	日本放送協会学園高等学校長
４月	広島商科大学名誉学長
５月	広島大学名誉教授
５月24日	中央教育審議会会長（第六期）（昭和40年５月23日まで）
９月	広島市名誉市民
11月	社会教育審議会委員（昭和46年７月まで）
昭和39年１月（77歳）	国語審議会委員
６月	日本図書館協会会長（昭和54年10月まで）
10月	国語審議会会長（昭和41年１月まで）
11月３日	勲一等瑞宝章
昭和40年５月28日（78歳）	中央教育審議会会長（第七期）（昭和42年５月27日まで） 国際大学協会第４回総会東京組織委員会会長
昭和41年２月15日	第三回日米文化教育会議日本側代表
４月１日	東京都立高等学校選抜制度改善審議会委員を委嘱される
４月15日	明治百年記念準備会議委員（昭和43年11月26日）
昭和42年２月（80歳）	東京都青少年とともにすすむ運動推進協議会会長（昭和55年６月まで）
昭和42年７月１日	中央教育審議会会長（第八期）（昭和44年６月30日まで）
昭和43年７月（81歳）	日本ユネスコ国内委員会名誉会長
11月15日	大学問題懇談会委員
昭和44年７月４日	中央教育審議会会長（第九期）（昭和46年７月３日まで）

昭和46年11月（84歳）　文化功労者顕彰
　　11月　福山市名誉市民
昭和48年12月（86歳）　松下視聴覚研究財団理事長
昭和49年４月29日（87歳）勲一等旭日大綬賞
昭和50年６月（88歳）　日本教育学会会長（昭和55年6月まで）
昭和52年６月（90歳）　特殊教育百年記念会会長（昭和54年6月まで）
昭和55年６月（93歳）　日本教育会名誉会長
昭和59年５月28日（97歳）死去
（本履歴は、広島大学所蔵森戸辰男人事記録、森戸辰男作成履歴、功績調書等より作成した）